

実績報告書

届出者	住所	大阪市住之江区南港北1-13-11	氏名	株式会社HRO 代表取締役 孔 令庸
特定事業者の主たる業種		75宿泊業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		ホテル業		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 26 年 4 月 1 日～	平成 29 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(25)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	8,664 t-CO ₂	8,251 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	9,548 t-CO ₂	8,847 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (28 年度)	第1年度 (26 年度)	第2年度 (27 年度)	第3年度 (28 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	6 %	6.4 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	8.6 %	9 %	7.4 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>前期と同様ではあるが、空調運転時間の調整と照明設備の高効率機器(LED化)を中心に取り組む。今後も一層の環境配慮、行動の実施及び照明のLED化を進めることで総排出量の削減の上積みを図りたい。</p>	
--	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー消費量を毎月集計し、分析することで改善策等の検討を行い、省エネルギー活動の実施を強化する。 ・今後も、省エネ法に基づくエネルギー管理標準の更なる充実を図るとともに、エネルギー管理体制の再整備を実施し全社的に温暖化対策に取り組む。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	ハイアット リージェン シー 大阪	コード (1216) 空調設備の運 用改善	エネルギー消費機器の運転調整 (予熱時間の短縮、終了後の連絡など)	28 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	ハイアット リージェン シー 大阪	コード (1218) LED照明の導 入	館内照明設備の高効率化 (LED機器への転換)	28 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	ハイアット リージェン シー 大阪	コード (1299) 熱源設備の導 入	地域冷暖房供給より自家熱源攝津によ り、消費効率を上げる (保守管理会社との連携)	28 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG排出		コード		年度
		人工排熱				～
						年度

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	東京都大田区羽田空港1-7-1 空港施設第2総合ビル	氏名	(株)エージーピー 代表取締役社長 山口 栄一
特定事業者の主たる業種		48運輸に附帯するサービス業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主に空港内で航空機用動力設備（電力、空調設備）の供給、および、設備の維持管理を行っている。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 26 年 4 月 1 日～	平成 29 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(25)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	68 t-CO ₂	68 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	73 t-CO ₂	74 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (28 年度)	第1年度 (26 年度)	第2年度 (27 年度)	第3年度 (28 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	1.5 %	7.4 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	2 %	5.7 %	-2.8 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 未使用時の事務所内電力使用量の抑制。(各照明設備、パソコン等の節電) ・ 移動の際、車両の使用は控え、積極的に自転車を使用する。 ・ 車両のアイドリングストップを徹底する。 	
--	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

弊社は、温暖化対策に取り組む為、ISO14001環境マネジメントシステムを取得し、全社的に地球温暖化抑制に努めています。また、各支社、支店において、月1回環境ミーティングにより、活動の進捗状況の報告、活動内容の報告等を行っています。関西空港においては、空港内の各企業が温暖化対策についての取り組み等の報告を行う「エコ愛ランド推進協議会」が定期的に開催され、弊社も同協議会の会員として会議に参加しています。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	関西支社	コード (1199) 電力使用量の抑制	未使用時の事務所内電力使用量の抑制。 (各照明設備、パソコン等の節電) ⇒H28年度 継続実施中 H29年度実施予定	26 年度 ～ 28 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
2	レ GHG排出	関西支社	コード (1113) 電力使用量の抑制	冷温水ポンプの運転台数を、状況に応じて適正な台数に管理し、電力量の抑制を実施する。 ⇒H28年度 継続実施中 H29年度実施予定	26 年度 ～ 28 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
3	レ GHG排出	大阪空港支店	コード (1199) 電力使用量の抑制	未使用時の事務所内電力使用量の抑制。 (各照明設備、パソコン等の節電) ⇒H28年度 継続実施中 H29年度実施予定	26 年度 ～ 28 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	関西支社	コード (2113) 燃料使用量の抑制	・車両のアイドリングストップを徹底する。 ・移動の際、車両の使用は控え、積極的に自転車を使用する。 ⇒H28年度 継続実施中 H29年度実施予定	26 年度 ～ 28 年度
	レ 人工排熱				
2	レ GHG排出	大阪空港支店	コード (2113) 燃料使用量の抑制	・車両のアイドリングストップを徹底する。 ・移動の際、車両の使用は控え、積極的に自転車を使用する。 ⇒H28年度 継続実施中 H29年度実施予定	26 年度 ～ 28 年度
	レ 人工排熱				

(3) その他の抑制対策
